



毎日が冒険、それが留学。

〜僕の中国渡航体験記〜





大学在学中に留学する人って、けっこう多いですよ。香川大学にも海外からの留学生はいますが、僕は口下手なれない。その点、海外に行くくと大胆なこともできてしまうから不思議です。積極的に話そうとするし、日本語を勉強している学生も多いから渡航先での友人も増えました。これは、そんな僕の留学体験記。大学での4年間、今しかできないことがあると思うんです。中国は2度目。どちらかというと、アジアに興味がありました。第2外国語は中国語だったし、法学部の僕にとって上海の法律専門大学なら単位認定制度があるから安心です。国際私法のゼミに入っていたので留学先でも国際法を勉強すれば、将来の仕事にも役立つと思えました。留学期間は昨年9月〜今年8月までの約1年間。中国は思っていたより日本人に対して友好的で、休日に出かけた先で水墨画を売っている人と仲良くなり、絵をいただきたいことも…。半年間は留学生専用のゲ

ストハウスで生活していましたが、その頃はちょうど、上海で仲良くなった友人と街中のアパートをシェアしていました。それからかな、毎日がおもしろく思えるようになったのは。北京などに旅行しておいしいものを食べた。紹興酒を飲みすぎて真っ赤になったり。すごく庶民的でしたよ。お寺参りにハマったこともあったつけ。だつて、参るたびに小さいけれどいいことがあるんです。水墨画をプレゼントされたのもお参りしたあとでしたから。また、その年の冬は10年ぶりの寒気で、上海の雪景色も素晴らしかった。思い出に残る景色のひとつです。

もちろん勉強にも励みました。といっても、上海の大学はとってもフランク。中国語の授業は少人数制で講義中もパンパン質問するし、いい意味で小学生っぽい活気がありました。教授の家に遊びに行つて手料理をご馳走になることも、日本じゃなかなか体験できないですよ。世間話も中国語だから、自然と身につくんだと思います。

日本に帰った今でもつい中国語が出たりして、両親に「なに？今の」なんて言われることも(笑)。渡航前はあんなに緊張していたのに、1年つて本当に早い。寮生活から飛び出して、思い切つて友人とシェアしたことが、現地での生活を豊かなものにしてくれたのかもしれない。

僕に留学のきっかけを与えてくれたのは、留学生などが集まるサークル「アイセス」。僕のことを支えてくれたサークルのみんな、家族や友達、そしてこのような機会を与えてくれた香川大学と法学部に感謝しています。香大は語学関係のビデオや資料が豊富。講義の空き時間は、外国語実習室で過ごすのがほとんどです。そこでもっと勉強して、来年の今ごろはまた中国へ行きたい。それまでは、僕のことを応援してくれているじいちゃんとはあちゃんの田んぼを手伝おうかな、と思う今日この頃です。

安藤大輔

PROFILE

あんどう だいすけ
法学部4年
趣味:音楽、語学、旅行

